

技術資料 (TDS)

作成日 2021/1/20

・ 特質・特性

アケミ アケボックス (AKEMI® AKEPOX 5010) は、脂環式ポリアミン硬化剤を含有するエポキシ樹脂をベースとした、ゲル状の無溶媒、2液性の接着剤です。

下記の特性があります。

- 非常に中性的な色合い
- わずかに黄変色する
- カートリッジシステムで簡単に投与・混合
- ゲル状で高い強度
- 硬化中の収縮度が低いので接着層の張力も低い
- 候耐性がある
- 接着部は-20~60/70°Cには耐えれますが、100~110°Cには耐えられません。
- AKEPOX Color PasteやColor Concentrateで簡単に着色できる
- 安定した結合層のサイズ
- 製品疲労を軽減
- 非常に安定したアルカリ性なのでコンクリートの接着に適している
- 溶剤を含まないので、ガス不浸透性素材を接着するのに適している
- わずかに湿った石材の接着にも使用できる
- 溶剤に敏感な材質の接着にも適している (例: 発泡ポリスチレン、ABS)

・ 適応範囲

アケミ アケボックス (AKEMI® AKEPOX 5010) は、主に石材産業で天然石 (大理石、御影石)、テクノセラミックスのような人工石や建材 (テラゾ、コンクリート) 等の接着に使用される耐候性のある接着剤です。高品質の原材料を使用し、黄変しないように開発されています。したがって、黄色っぽいエポキシ樹脂系のシステムを使用しなくとも明るめの色や白っぽい天然石にも組み合わせ使用することが出来ます。ゲル状の粘性があるがなめらかなので、垂直面に塗布しても液だれしません。さらに、薄い接着層でも強度があります。

アケミ アケボックス (AKEMI® AKEPOX 5010) は、その他の素材の接着にも使用できます。プラスチック (例: 硬質PVC、ポリエステル、ポリスチレン、ABS、ポリカーボネート)、紙、木材、ガラス等

アケミ アケボックス (AKEMI® AKEPOX 5010) は、以下の接着には適していません。

ポリオレフィン (ポリエチレン、ポリプロピレン)、シリコン、フッ化炭化水素 (テフロン)、軟質PVC、軟質ポリウレタン、ブチルゴム、金属

・ 使用方法

A. 缶の製品

1. 被着体表面の水分と汚れを除去します。完全に乾燥させ、粗面にします。
2. 成分Aの (体積または重量) と成分Bの (体積または重量) を均質になるまでしっかり混ぜます。
3. AKEPOX® Coloring PasteまたはColor Concentrateを最大5%まで加えて好みの色に合わせます。

4. 約 20～30分（20℃）で作業を終えてください。
6～8時間（20℃）経過後でもまだ完全には硬化していません。
約12～16時間後（20℃）であれば次の処理にとりかけられるでしょう。
7日後であれば完全に硬化しています（20℃）。
5. 使用道具はAKEMI Universal Dilutionで清潔にしてください。
6. 温めると硬化時間を早め、温度を下げると硬化時間が遅くなります。

B.カートリッジシステム

1. 被着体表面の水分と汚れを除去します。完全に乾燥させ、粗面にします。
2. カートリッジから留め金はずし、カートリッジをガンに挿入し、両方の開口部から材料が出るまでグリッパを動かします。混合ノズルをしっかり締めてください。
3. AKEPOX® Coloring PasteまたはColor Concentrateを最大5%まで加えて好みの色に合わせます。
4. 混合ノズルを使用しない場合は両方の成分を十分に混合してください。
5. 約 20～30分（20℃）で作業を終えてください。
6～8時間（20℃）経過後でもまだ完全には硬化していません。
約12～16時間後（20℃）であればさらなる処理にとりかけられるでしょう。
7日後であれば完全に硬化しています（20℃）。
6. 使用道具はAKEMI Universal Dilutionで清潔にしてください。
7. 温めると硬化時間を早め、温度を下げると硬化時間が遅くなります。

・ 特記事項

- － 荷重構造部品の接着にも適しています。
DIN 18516-1、3もしくはDIN 2304等の関連の規格は厳守してください。
- － 最適な接着の特性を得るには、正確な混合比率を守ってください。
余分な主剤、硬化剤は強度が低下もしくは変色するおそれがあります。
- － シングルミックスカートリッジは、圧縮空気銃や電動ピストンガンには適していません。
- － 接着剤と硬化剤にはそれぞれ別のヘラを使用してください。
- － すでに主剤が硬化していたりジェル状になっているものは使用しないでください。
- － 十分に硬化しないため、10℃以下の環境では使用しないでください。
- － 50℃以上の温度で硬化した接着剤は黄変する傾向にあります。
- － 一度硬化した硬化物は溶解剤でも取り除くことはできません。
高温（>200℃）にて物理的に取り除くことは可能ですが接着面等損傷の可能性がります。
- － A成分はわずかに固まることがありますが、温めることによって再び使用可能になります。
- － 接着する素材により、接着の安定性は変わります。
ケイ酸塩結合石は、炭酸塩結合石よりも接着効果が良いです。

・ 技術データ

色	成分A・B	透明	CC2200
比重	成分A・B	1.16 g/ cm ³	

可使時間（硬化剤を混合してから使用できる時間（分））						
成分A100gと成分B50gを混ぜた場合						
10℃	60-70					
20℃	20-30					
30℃	10-15					
40℃	5-10					
強度特性						
曲げ強度 DIN EN ISO 178：	60-70N/mm ²					
引張り強度 DIN EN ISO 527：	30-40N/mm ²					
薬品の耐性						
吸水性	<0.5%					
塩化ナトリウム溶液10%	安定					
塩水	安定					
アンモニウム10%	安定					
ソーダライ10%	安定					
塩酸10%	安定					
酢酸10%	ほぼ安定					
ギ酸10%	ほぼ安定					
ガソリン	安定					
ディーゼルオイル	安定					
潤滑油	安定					
2mm厚で20℃環境下の場合の硬化過程（Shore D 硬度）						
4h/-	5h/44	6h/67	7h/74	8h/76	24h/82	7d/83

- 保管期間

直射日光を避け、湿気のない冷暗所で元の容器で2年。（5-25℃/41-77°F）

- 健康と安全

この製品の使用前にマテリアルセーフティデータシートをご一読ください。

- 重要な注意事項

使用に当たっては、必ず予備テストを行い確認の上、実際の使用をしてください。